

知事賞

【題名】 マザー・テレサの幸せとは
【学校・学年】 倉吉市立上北条小学校六学年
【氏名】 宇山 実桜

私は、伝記「マザー・テレサ」を読んで混
乱している。テレサはその一生の中で多くの
人を助けた。テレサは十二才の時、「修道女
になりたい」という夢をもち、十八才でイン
ドに行きスラムの人たちを助けた。それはと
てもすごい行動だと思う。
私たちがたべて、人を助けたい、人の役
に立ちたい」という気持ちをもっている。友
達が困っている時に声をかけた時、手伝った
りすることはできる。しかし、自分の家や食
べ物など最も生活に必要なものや大切なもの
を人を助けるために使えるだろうか。テレサ
は多くの人を幸せにすることができたが、そ
のような人のためだけに生きる行動をしてテ
レサ自身は本当に幸せだと思っていたのたろ
うか。私は聞きたいと思った。
でも、テレサの行動から分かることが一つ
ある。テレサは「神様のために行けるのなら
どんなことでもかまいません」と話している。
この言葉から私は、自分の事より神様から与

えられたことを一番に考えているのだと思う。
ということとは、テレサは人を助けることを自
分に与えられた使命だと感じているのだと思
う。

例えば、新型コロナウイルス患者を助けて
いる医療従事者たちでそうだろう。もし医者
や看護師が今、仕事を辞めていたらコロナウ
イルスの感染は拡大し、死者は多くなってい
るはずだ。きっと医者や看護師たちでコロナ
ウイルスは怖い。でも「患者を治す」という
使命を感じておられると思う。だから今も一
人でも多くの患者を治すため懸命に働いてお
られる。テレサも同じではないだろうか。テ
レサにとって人を助けることは、神様から与
えられた使命であり、テレサはやりがいを感じ
ているのだと思う。使命をもって働くこと
で、やりがいを感じる事ができるのではな
いか。

テレサのやりたかった事は貧しい人を助け
ること。どんなにつらくて大変でも、使命を

もって働いたテレサは、きっとやりがいや幸せを感じたことだろう。

私には、テレサのような生き方はできない。でも将来、自分が使命ややりがいを感じる事ができる仕事に就きたいと思う。そして幸せだと思える生き方がしたい。

これが伝記「マザー・テレサ」を読んで、私が強く感じたことだ。